

学校目標の具現化のために

◆ 夢や目標をもたせるために

○ 学級担任として

- ・ 学校生活の様々な場面において、個々の生徒に役割をもたせ、一生懸命に取り組ませることにより、達成感や自己肯定感を感じさせ、夢や目標をもつことに前向きになれるようにする。
- ・ 新学期や行事等、機会を捉えて目標を立てさせる。そして、目標に対する振り返りを行わせる。
- ・ 自分や他者の「よいところ」に気付く取組を意図して行う。
- ・ 個々の生徒、学級集団に肯定的な言動を心掛ける。
- ・ まず教師が夢や目標を常日頃より語り、よき模範となる。
- ・ 自分をよく知り、自己肯定感や有用感を高めさせる。
- ・ 短学活で毎日一分間スピーチを行い、互いに触発し合う。
- ・ 目標を書かせ、教室に掲示する。
- ・ 様々な職業を紹介する掲示物等を作成する。
- ・ 進路学習を充実させる。
- ・ 学期始めの時期やテスト前などの節目に、自分の目標を書いていつでも見えるところに掲示し、常にその目標を意識して物事に取り組ませる。
- ・ 見通し（年度始め、職場体験学習、立志式）をもって、夢や目標を確認し、それに対して、本人の努力を毎学期、振り返らせる。
- ・ 将来、幅広い選択肢の中から進路選択ができるように、発達段階に応じた進路指導を行う。
- ・ 学活や道徳、学校行事等を通して生徒自らが考える機会を設け、自主的に行動していく中で、成功体験や失敗体験から多くのことを学び、かつ未来につながる教育を展開していく。
- ・ 学期ごとの目標や1年間の目標を設定させる。
- ・ 真剣に将来のことを考えさせるように日頃から短学活などで話をして、進路学習を通して、自分の将来の姿がどうなっているのかイメージさせる。
- ・ 道徳、学活の充実。
- ・ 学級の一員であることの自覚をもたせるとともに、生徒一人一人に役割を与え、自ら進んで実践しようとする態度を育てる。
- ・ 学級の中で一人一人に所属感をもたせるために、専門部の活動や学校行事に責任をもって取り組める学級の雰囲気づくりに努め、夢や目標を互いに語り合えるようにする。
- ・ 学級始めや節目に、目標を立てさせ掲示し、振り返りをさせる。
- ・ 係活動や、1人1役など1人1人に役割を与えることで責任感や達成感をもたせる。
- ・ 道徳教育の充実。
- ・ 設営・掲示物作成。
- ・ 学校生活の様々な活動において、個々・集団の役割をもたせ、精一杯取り組ませる活動を通して様々な能力の育成を図り、生徒一人一人が夢や目標をもって生活できるようにする。
- ・ 本人の特性や興味を把握し、それらに関連する進路、職業を調べる機会を設定する。
- ・ 夏休み三者面談を実施し進路実現に向けて計画を立てる。
- ・ 生活の記録や学校行事での触れ合いを通して、夢や目標を語り合い、定期テストや部活動等の目標を具体的に立てさせる。その後、学期毎に振り返りをさせる。
- ・ 短期目標を設定させ、定期的に評価をさせる。また、進路指導を充実させ3年生の進路指導につなげる。
- ・ 道徳、学活の充実。
- ・ 道徳の授業の充実に努める。宅習などの提出を徹底させ、家庭学習の充実、学習習慣の定着を図る。
- ・ 特別活動や道徳の授業の成功や失敗を通して、目標や夢をもちそれに向かって行動する大切さを感じさせる。
- ・ 新学期や行事等、機会を捉え目標を設定し、目標を実現するための行動計画を立てさせる。また、計画に対する振り返りを行わせる。

○ 教科担任として

- 実習等を等して、形成的評価等を利用し小さな目標を少しずつ達成させ、自分の力で完成させる。
- 生徒一人一人の5教科では出せない良さを見つけてあげる。
- 各単元や学習活動で目指したい力を明確に示すことで、生徒それぞれの発達段階に合わせた目標をもたせる。
- 生徒の主體的な取り組みを評価する（ほめる）。
- 理科で身に付く力の効用を随時話をする。
- 夢や目標について書かれた英文を読み、その大切さや、夢を実現させた人物の取った行動について学ぶ。（2年教科書プログラム6、12）
- 自己表現活動の中で、夢や目標について、基礎基本や新出の英語表現を使ってまとめさせ、全体の場で発表させることにより、学びや目標を高めさせる。
- 作詞者、作曲者の思いや生き方を紹介する。
- 「学ぶ意義」について、自分の考え方や努力の度合いに応じて明示させる。（まず書いてもらい、適宜確認、修正させる）
- 実社会の状況や課題を踏まえた学習課題に取り組みせ、自分が何をすべきか、何ができるかを考えさせる。
- 自分の夢や目標を、学習した文法事項や単語を使って書いたり、作成した英作文を発表する時間を授業のなか（単元末など）で設けたりする。
- 見通しをもたせて、夢や目標を達成できるように、伝える力を向上させるために、統計グラフコンクールで数字の根拠を基にもって出展させる。
- 学習の目標や到達基準を設け、ゴールのイメージをもたせて学習に取り組みさせる。
- 課題解決を生徒自身が主體的に行えるような指導法の工夫・改善に努める。生徒が「分かる」「できる」・「使える」・「生かせる」授業になるよう研鑽に励む。
- 数学の楽しさ、分かる楽しさを味わわせる授業を目指す。
- 授業中に英語でALTの先生と会話することで、外国人と話すことの劣等感を少しでも減らし、英語に自信をつけさせたい。また、英検などを活用して、合格目標をもたせたい。
- 生徒1人1人のできることを増やしていく。
- 実践的・体験的な活動を通して学んだことを、生活の中で進んで実践しようとする態度を育てる。
- 生徒自ら課題解決ができるようになるために、読み取る力や伝え合う力を伸ばしていき、未来を担うための知識を身に付けさせるようにする。
- 技能面だけでなく、ワークシートや準備運動など授業への取り組みを評価につなげていく。
- 毎時間ワークシートで振り返りをさせることで、次の授業への意欲をもたせる。
- 英検への挑戦。
- 「将来の夢」英作文。
- 教材ごとに目標を考えさせて、学習に取り組みさせることによって、目標をもつことの大切さに気付かせる。また、その達成度を把握させることによって自己の力を伸ばすことの意義を感得させる。
- 表現・鑑賞活動を通して、各自の目標を具現化した制作をさせ、成就感や達成感を感じることで、美術を愛好する生徒を育成し、生徒一人一人が夢や目標をもって生活できるようにする。
- 時事問題をテーマにした英作文作成や、Q&Aを行う機会を設定する。
- 映像やALTとの交流を通して世界情勢や文化に興味をもたせる。
- 授業の中で、学習内容と職業を関連させ、将来への職業を考えさせる機会をつくる。このことで、今の頑張りや、夢の実現につながることを考えさせたい。
- 新聞の社説等を配布し、スピーチ発表や作文等に役立てさせる。夢や目標を達成させるために、対人関係、面接の試験まで広く視野をもたせ、幅広い知識やコミュニケーション能力を養わせる。
- 授業の中に必ずできる場面を設定し、充実感や達成感を味わわせる。
- 生徒一人一人のできることを増やしていく。
- 個人の記録をしっかりと取り、できる喜びや達成感を味わわせる。
- スポーツや健康を通じた社会貢献や生きがいについて伝える。
- 1単位時間の学習目標を明確に示し、何が分かるようになれば良いのかをしっかりと把握させる。

◆ 未来を切り拓くことができるようにするために

○ 学級担任として

- ・ 高校進学だけではなく将来を見通した進路指導を充実させる。
- ・ 生徒会活動において、まずは、すべき役割を明確にし責任をもって実践させる。さらに、よりよい学校生活のために必要な活動を見付けさせ、実践させる。
- ・ 目標 → 計画（手だて） → 実践 → 振り返りの機会をつくる。
- ・ 広い世界（未知の）の情報・体験を得る機会をつくる。
- ・ まず教師が未来を切り拓くために求められているものや技能について常日頃より語る。
- ・ 進路情報を提供する。（学校見学等を含む）
- ・ 生活単元，自立単元の内容充実を図る。
- ・ 進路学習を充実させる。
- ・ 問題や物事について考える際に、自分の考えを必要とする、またはそれを周りに伝える場面を増やすことで、問題を解決する力を養う。
- ・ 生活の記録を毎日、提出させて、自分の心情などを伝える力を向上させて、自分の未来に自信がもてるように指導していく。
- ・ コミュニケーションの取り方に気を付けながら、互いに協力して様々なことを成し遂げようとする気持ちをもたせる。
- ・ 学活や道徳，学校行事や日常生活等を通して、生徒自らが主体的に考え、行動し、他者と協力しながら様々な問題を解決できる教育を行っていく。
- ・ 自分の力でなんとかさせたいので、提出物や期限などを守らせたい。また、宅習や生活の記録など確実に提出させ、チェックまでしっかりして、生徒たちのモチベーションも上げたい。
- ・ 行事や生徒会活動などの学校生活を通して、色々なことに挑戦させる。
- ・ 自分の適性を考えさせるとともに、将来の「夢実現」に向けたよりよい進路選択ができるよう支援する。
- ・ 学校行事や学級活動を通して、互いの良さを認め合い、自分の個性を発揮できるように声掛けをしていく。
- ・ 提出物や宿題の期限内提出を促す。
- ・ 生活の記録を書くことを大事にさせ、文章を書く力を身に付けさせる。
- ・ 進路指導の充実。
- ・ 設営・掲示物作成。
- ・ 進路学習を通して、進学・就職などの将来を見通した進路指導を充実させる。
- ・ 自立する力を付けさせることを目標に、SSTを活用して、コミュニケーション能力や時と場に応じた対応ができる力を養う。
- ・ 生活の記録や、宅習，配布物等，提出すべきものは確実に提出させる習慣を身に付けさせる。
- ・ 様々な場面においてどのように行動するか（すべきか）を考えさせる。
- ・ 行事や生徒会活動などの学校生活を通して、色々なことに挑戦させる。
- ・ 一人一役の徹底を図り、自覚と責任をもって取り組ませる。学級会長・副会長と連携を図り見届けと支援を行う。
- ・ 学級のなかで役割を持たせ、自ら考え、友だちと協力する場面を設定する。
- ・ 生徒一人一人に役割を与え、責任をもって実践させることで、所属感や責任感を育む。

○ 教科担任として

- 家庭で実践できるような課題や教科指導に力を入れ、自分のことを自分で考え実践する力を付けさせる。
- 自分の考えや分からないことをグループ活動で発言させたり、自ら質問させたりする活動を行う。
- 課題設定 → 課題解決と導く授業を実践する。
- 20年、30年後の日本の未来を考えると、英語がコミュニティや職場でより一層必要とされるため、英語学習の重要性を理解させる。
- 未来を切り拓く行動について書かれた英文を読み、その大切さや行動について学ぶ。(2年プログラム8)
- 演奏会情報を掲示する。
- 作詞者、作曲者の思いや生き方を紹介する。
- 実社会の状況や課題を自らもよく学び、生徒に伝える。
- 実社会の状況や課題を踏まえた学習課題に取り組みさせる。
- エネルギー、環境に関する視点を軸に授業を構成する。
- 新しい文法事項を学習する時間においては、自分でじっくり考えたり、周りとは相談する活動を取り入れたりして、主体的に動いて答えを導けるような環境をつくる。
- 定期テストなどで評価の基礎点(提出物、資料の読み取る力、伝える力、理解する力)を向上させて、自信をもてるように指導していく。
- 様々な作品の主人公の生き方や、作者の生き方を通して人生観を学び、自分の人生を切り拓こうとする意欲をもたせる。
- 将来における様々な問題に対応できるように課題解決学習を通して、問題解決を生徒自身で図れるような授業を展開していく
- 確かな学力を付けさせる。
- 予習、復習、英宅など確実に提出させ、提出できない場合は、自分の口で、きちんと報告に来るようにさせたい。もちろん予習、復習を徹底したい。
- 難しい問題でも、諦めずに解こうとする意欲を育てる。
- 身の周りの製品や物には、どのような技術が詰まっているか、製品の裏側に秘められた思いや工夫を知らせ、ものづくりを行う際に、どのようなことに注意して行えばよいのかを考えさせる。
- 疑問に思ったことは率先して調べようとする態度を育てる。
- 新聞に触れる機会を増やし、世の中の様子に関心をもてるようにし、未来につながる自分の役目を認識できるような手立てをとっていく。
- 体を動かすことの楽しさを味わい、生涯にわたってスポーツに携わってもらえるような授業を目指す。
- 英検への挑戦。
- 小テストや単元テストにおいて、常に過去の自分の結果と比較させ自己の力が伸びる喜びを実感させる。
- 美術の制作課題を通して、自己表現を追求させる教科指導を実践する。
- コミュニケーションツールの1つとしての英語の「話す」力を身に付けさせる。
- 場面設定を明確にした言語活動を行い、実践力を養う。
- 基礎的・基本的事項の定着を図り、「確かな学力」を身に付けさせる。このことで、特に、定着度の低い生徒でも自信をもって、将来への夢を切り開くことができる力を育てたい。
- 定期テストで評価の基礎点を、鹿児島学力定着度で総合点を向上させ、自信を付けさせる。
- 新しい問題に対し、既習の学習内容で使えるものはないか考えさせる。
- 難しい問題でも、諦めずに解こうとする意欲を育てる。
- グループ学習などにおいて、個人の役割の徹底を図り、積極的に意見交換ができるような環境づくりに努める。
- 仲間と協力し、課題解決に向かい取り組ませる。
- ペア学習やグループ学習など学習形態を工夫し、互いに助け合い・支え合いながら学習を進める。

◆ 心豊かな生徒になるために

○ 学級担任として

- ・ 生徒同士、生徒と教師とのコミュニケーションを大切にする。
- ・ 道徳の授業に力を入れる。
- ・ 学活や道徳の授業等で話し合い活動を行い、様々な思いや考えがあることに気付かせる。さらに異なる思いや考えをもつ同士でどのように集団生活を送るべきか考えさせる。
- ・ 学級の中でプラスの行いを評価（ほめる）する機会をつくる。
- ・ 学級全体で、目標をもって行事や係の活動に取り組みさせる。
- ・ 道徳の授業は当然ながら、すべての学校教育活動において、22項目の大切さについて十分考えさせ、取るべき行動について学ばせる。学習直後に実践できていない場面を発見したら、決して見逃さずに、チャンスと捉えて指導する。
- ・ 朝、教室で子どもたちを笑顔で迎え、明るいあいさつをする。
- ・ 教室環境を整える。（整理整頓・定期的な掲示物の変更）
- ・ 道徳教育を充実させる。
- ・ 自分とは違った角度や立場からも物事を考え、行動できるようになってもらうため、自らいろいろな視点を生徒に示すなどして、考えを深める時間を増やす。
- ・ 教科道徳の「22の鍵」の道徳的判断力、心情、実践意欲と態度が向上できるような教科「道徳」を、実践し、心豊かな生徒を育成する。
- ・ 自分や友達の個性を大切にし、思いやりのある態度や言葉で接することができるように支援する。
- ・ 学校行事や道徳教育、人権教育等を中心に様々な経験を通して、生徒自らの意見を持ち、かつ他者の考え・思いまで踏まえて行動できるよう思いをめぐらせる教育を展開していく。
- ・ 学級のお互いの個性を理解できるような活動を取り入れる。
- ・ 道徳の授業の充実。
- ・ 学級通信の活用。
- ・ 行事を通して、たくさんを経験させる。特に協力することの大切さと相手を思いやる気持ちを高めたい。そのために行事ごとに反省をさせたい。
- ・ 協力する雰囲気、失敗をみんなでフォローする雰囲気をつくる。
- ・ 教室内の環境整備（美化）に努めようとする態度を育てる。
 - ① 掃除棚・カバン棚の整理整頓。
 - ② 各種用具の保守点検・整備（あるべき所に、あるべき姿で）。
- ・ 挨拶や身の周りの整理整頓を促す。
- ・ 行事等での目標を明確にさせ、クラスで協力すること、達成感を味わわせる。
- ・ 道徳教育の充実。
- ・ 朝読書の充実（良書のすすめ）。
- ・ 担任として、学級の一人一人とコミュニケーションを図り、道徳・学活などの授業を通して、差別・偏見のない人権感覚を育成する。
- ・ スモールステップで個に応じた目標を設定し、できた実感をもたせ、自己肯定感につなげる。
- ・ 教科道徳の「22の鍵」の道徳的判断力、心情、実践意欲と態度が向上できるような道徳科を実践する。また、学年部全体で道徳科の指導を行う。
- ・ 問題を注意するだけでなく、何が問題なのか、どのように行動した方がよいのかを全体で確認する。
- ・ 協力する雰囲気、失敗をみんなでフォローする雰囲気を作る。
- ・ 様々な経験を通して、自分の考えをしっかりと持ち、他者の考えや思いにまで心を巡らせられる生徒を育てる。
- ・ 生徒一人一人を肯定し、学級が居心地の良い場所になるような働きかけや学級づくり・設営を心がけていく。
- ・ 学活や道徳の授業で話し合い活動を充実させ、互いに異なる考えや感じ方があることに気付かせる。また、その違いを認め合い、いじめや差別のない学級にするためにどうすれば良いか考えさせる。

○ 教科担任として

- ・ グループ活動等を通して様々な意見を聞き、考える機会をたくさんつくる。
- ・ 自分との対話、教材文との対話、他者との対話を通して、自分の思いや考えと他者の思いや考えを、同様に大切にする方法について考えさせる。
- ・ 班で協力して実験・観察に取り組みさせる。
- ・ 互いの意見を共有する場を設定する。
- ・ 他の意見を認め合える発表の場を設定する。
- ・ 心豊かな考えや行動について書かれた英文を読み、その大切さや行動について学ぶ。(2年プログラム3)
- ・ 子どもたちの自主的な表現活動を引き出すために・・・
 - ① 掲示物の工夫。
 - ② 機器の活用・準備(書画カメラ・キーボード・CD等)。
 - ③ 自己評価(振り返りの時間の確保と評価カードへの記入)。
- ・ 自然、環境の学習に道徳科、人権学習の視点を取り入れる。
- ・ 自然の雄大さ、対する人間の小ささ、儚さを伝え、自然に対する畏敬の念を醸成させる。
- ・ 自分で作成した英作文や考えを発表する際には、周りの生徒と感想や意見を共有する時間を作り、様々な価値観を知る機会を与える。
- ・ 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を向上させるように、教科「道徳」と連携を図り、適宜、心豊かな生徒を育成したい。
- ・ 自分の思いを表現できるように、作文や作品コンクールへの応募などに積極的に取り組む。
- ・ 社会での学習を通して、人権に関する歴史や現在の仕組みについて学び、自らの意見をもち、かつ他者の考え・思いまで踏まえて行動できるよう思いをめぐらせる授業を展開していく。
- ・ 数学が得意な生徒が、苦手な生徒に教えるなどペア学習やグループ活動を取り入れる。
- ・ 英語教材を通して、主人公の気持ちに共感させられる単元は、共感させ、考えさせる。また忘れ物などの際には、嫌な顔せず広い心で見せてあげられる雰囲気をつくりたい。
- ・ 互いに助け合いながら学習する場面を設ける。
- ・ 教材・教具の保守点検と特別教室内の環境整備に努める。
 - ① 安全で学習しやすい環境づくり。
 - ② 工具・工作機械等の点検整備。
 - ③ 危険個所の早期発見・早期対応。
- ・ グループ活動を通して、チームで協力する、助け合いながら活動させる。
- ・ ミニティーチャーを作ることで、活躍の場を与える。
- ・ 教材を通して、平和・絆・ボランティア精神について理解させる。
- ・ 様々な教材において、自分の考えを表現させ、互いに読みあったり、聞きあったりすることで、自らとは異なる考えをも受け入れ、広く物事をとらえることができるようにする。
- ・ 様々な作品・作者の鑑賞活動を通して、作品に込められた思いを感じ取らせ、多様な表現活動があることに気付かせるとともに、制作活動で自己表現を工夫させる教科指導をする。
- ・ 言語活動の中で、他者の意見を認めながら、褒め合う声かけや相づちを大切に活動させる。
- ・ 他の意見を尊重し、自分の意見を積極的に発言できるような生徒を育てたい。
- ・ 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を向上させるように、教科「道徳」と連携を図り、心豊かな生徒を育成する。
- ・ グループ学習を取り入れ、学び合いの場を設定する。
- ・ 互いに助け合いながら学習する場面を設ける。
- ・ 集団行動の徹底を図り、自分勝手になく他者へ思いにまで巡らせられる生徒を育てる。
- ・ 言語活動ができる場を設定し、様々な意見を引き出していく。
- ・ 自分の考えを発表したり、他の生徒の考えや発表を聞く中で、自分の考えだけでなく、他の意見も大切にすることを身に付けさせる。

◆ たくましい生徒になるために

○ 学級担任として

- 様々なことに生徒同士で考え、行動し解決できるように見守っていく。
- 体調、持ち物、時間の管理を自分自身で行わせる。さらに、体調不良や忘れ物等、自分自身で連絡、相談できるよう指導する。
- 係活動や日直の仕事などやるべきことに必ず取り組ませる。
- 時間・提出物・ルールを守らせる。
- 社会に出て通用するか否かの投げかけを随時行う。
- 真のたくましさについて考えさせる。新聞記事を使ってたくましい生き方の例を紹介する。
- 生徒や保護者の気持ちに寄り添う言葉掛けを行う。
- 自分のことは自分でできるように、手立てを講じ、継続した声かけを行う。
- 学校行事への主体的な参加を促す。
- 周りをよく見て行動するなどの声かけを率先して行い、進んでお互いを助け合うことが自然な環境を作る。
- 見通し（新体力テスト、体育大会、持久走大会など）をもって、生徒の実態に応じた声掛けを行い、心と体を向上させたい。
- 自分が苦手なことを避けるのではなく、苦手さとうまく向き合いながら、向上できるように支援する。
- 学校生活全般を通して、粘り強く最後まで頑張る生徒の育成を図り、心身共に健康的な生活を送ることができるような教育を展開していく。
- 自分の任された仕事などを確実にできるようにする。
- 優しさだけではなく、厳しさも使い分けながら、生徒に指導していきたい。指導された後に気持ちを入れ替えられるような指導を心掛けたい。
- あいさつ、返事、感謝、謝罪が気持ちよくできるようにする。
- 基本的な生活習慣の規律の確立に努める。
- 常に「気づき・考え・実行」できる生徒の育成を行う。
- 挨拶、返事、時間を守る、掃除に一生懸命取り組むなどの姿勢を育てていきたい。
- 苦手なものにチャレンジさせる。チャレンジし続けることの大切さを教える。
- 様々な問題に対して、集団・個々で行動し解決できるように支援する。
- 自立する力を身に付けさせるために、できることを一つ一つ褒めながら自信を付けさせる。
- 新体力テスト、体育大会、持久走大会などの行事やテストを通して生徒の実態に応じた声掛けを行い、心と体を向上させたい。
- 学級内のルールを徹底し、厳しさと優しさを持ち、根気強く指導する。
- 挨拶、返事、感謝、謝罪が気持ちよくできるようにする。
- 教室の整理整頓を徹底し、師弟同行で掃除に一生懸命に取り組ませる。
- 生徒一人一人と向き合い、困難や挫折に直面しても話をしながら解決策を共に模索していく。
- 言われたことをするだけでなく、あらゆる場面で、自ら「気づき・考え・行動する」態度・能力の育成するよう指導する。

○ 教科担任として

- 自分の力で考え答えを出したり、作品を最後まで完成させたりすることができるよう支援する。
- 自宅学習課題等、すべきことに確実に取り組ませる。できないとき、忘れたときは、責任をもって連絡や相談ができるよう指導する。
- 自分の考えを必ず書かせる。
- 自分の考えを発表する場を設定する。
- 話し合い、意見を練り上げる場を設定する。
- 二人の人物について書かれた英文を読み、たくましい生き方について学ぶ。(2年プログラム7)
- できないこと・忘れ物等があったときに、責任をもって連絡や相談ができるよう指導する。
- グループでの共働学習を通して、コミュニケーション能力を高める。(価値観の違うもの同士のコラボレーション)
- 授業中に、分からない単語は辞書を使って一緒に調べたり、ALTの先生と1対1で会話する活動を取り入れたりと、英語を授業外でも積極的に使う姿勢を身に付けさせる。
- 自信がもてるように、様々な力を向上させてたくましい生徒を育成したい。
- 分からない問題にも粘り強く取り組み、記述問題や作文などを書き、時間いっぱい取り組ませる。家庭学習にしっかり取り組ませる。
- 課題解決学習を中心として、課題に生徒自らが主体的・対話的に取り組み、解決に向けて粘り強く最後まで頑張る資質・能力の育成を図る。
- どんな課題でも解決できるように、基礎的な学力を付けさせる。
- 英語の壁にぶち当たっている生徒に理解しようとする気持ちをもち続けさせたい。そのためには、周りをよく見て、声かけをし、1つ1つ丁寧に教えてあげたい。
- 難しい問題でも、諦めずに解こうとする意欲を育てる。
- 学習規律の確立に努める。
 - ① 一分前着席・黙想の徹底。
 - ② 提出期限の厳守。
- 授業前の補強運動を工夫し、自己の体力の向上に努めさせる。
- 英検への挑戦。
- 自宅での課題や授業における課題提出を確実に行わせる。学力的・能力的に提出が不十分な生徒には各自にあった目標をもたせ、それに確実に取り組ませる。
- すべての作品を完成させて、提出できるように支援する。
- 提出物の期限を守ること等、社会で必要な力を身に付けさせることを徹底する。
- 難しい問題でも、簡単に諦めず、できるまで取り組むことができるように指導する。このことで、困難に出会ったとき、簡単に諦めず立ち向かおうとする力を身に付けさせたい。
- 自信がもてるように、様々な力を向上させてたくましい生徒を育成したい。
- 適切な難易度の課題を設定し、根気強く取り組めるようにする。
- 難しい問題でも、諦めずに解こうとする意欲を育てる。
- きついことでも我慢させることや最後までやり通す経験を通して、強い心を育てる。
- できないことにも積極的にチャレンジしていける雰囲気を作る。
- 自宅学習課題等に確実に取り組ませるとともに、見届けまでしっかりと行う。